

# フークトーフ通信 61

ふくしまの銘菓を文化遺産に

山田 英明 (福島市)

令和五年(二〇二三)十二月、ユネスコ無形文化遺産「和食」が登録十周年を迎えた。さらに現在、「伝統的酒造り」の登録が提案中であり、順調にいけば令和六年十一月頃に審議・決定の見込みという。また、国内でも、令和四年十月に「菓銘をもつ生菓子(煉切・こなし)」が国の登録無形文化財に認定されるなど、日本の伝統的な食文化が持つ独自性と普遍性に改めて注目が寄せられている。

筆者はかつて、明治時代に白河町(現白河市)で生産されていた



筆者の今週のおやつ箱

地ビール「フコクビール」の復元を試みたことがあり(本紙第三十一号・第四十六号参照)、周囲からは左党と思われるようであるが、実は大の甘党である。史料調査に出かける度に、その土地の銘菓を味わうことに無上の喜びを感じている。

県域の広い福島県には、実に様々な銘菓がある。福島県観光物産館の最新(令和六年七月)のお土産ランキング(お菓子部門)によると、こ

の夏は「チーズタルト桃」(柏屋)、「ままだおる」(三万石)、「桃笑」(フルラーージュ)が人気のようだが、物産館で扱っていない商品も含め、その一つ一つが地域文化そのものであると考えている。

日本経済新聞社の調査によれば、昨年の菓子市場は五・六%増、輸出・輸入も過去最高というが、筆者による菓子舗めぐりの感触では、福島県の菓子業界を取り巻く状況はそれほど芳しくない。原発事故による風評被害、コロナ禍による需要の変化、原材料価格や光熱費の高騰、後継者問題…。原因は様々であるが、どの菓子舗も何らかの悩みや不安を抱えているという印象を受けた。

このままでは大切な地域文化が消えてしまうかもしれない。私たちにまず出来ることは食べて支えることであるが、それ以外にも、地域の銘菓を文化遺産として位置づけ、その魅力を発信していくという方法もある。他県の例となるが、新潟県では平成二十八年(二〇一六)に「新潟のお菓子文化掘り起こし事業」を立ち上げ、市民による「お菓子調査隊」を組織し、その調査成果を新潟県立歴史博物館において「お菓子と新潟」展として発表した。

翻って福島県に目を転じると、福島県菓子工業組合が令和四年から福島県献菓祭を開催するなど、製造者側からの新たな取り組みも始まっているが、県民全体を巻き込んだ盛り上がりには程遠い。

そこで、本紙の読者各位へ提案である。福島県版「お菓子調査隊」を作り、一緒に本県のお菓子文化を掘り起こしていただけないだろうか。具体的には、各地域の銘菓について現存・消失を問わずデータベース化し、現存するものは菓子舗へ聴き取りをし、消失したもののについてはその復元を目指す。成果は、もちろん本紙を通じて共有する。ご賛同くださる方は、本紙編集部までご一報を。

フークトープ紀行 61

戒石銘 (二本松市)

爾俸爾祿 民膏民脂 下民易虐 上天難欺

〔爾の俸・爾の祿は 民の膏・民の脂なり 下民は虐け易きも 上天は欺き難し〕

かつて二本松藩士たちは、この言葉が刻まれた長さ八・五m、幅五mの巨石の前を通って藩庁に出仕したという。その意味するところは「お前(武士)の俸給は、民があぶらして働いたたまものより得ているのである。お前は民に感謝し、いたわらねばならない。この気持ちを忘れて弱い民達を虐げたりすると、きつと天罰があるぞ」(二本松市HP参照)というもので、為政者の心構えを説いた言葉として広く知られている。

この銘が刻まれたのは、寛延二年(一七四九)のことで、藩の儒学者である岩井田昨非(さくひ)の進言によるものである。当時は全国的な不況下であり、二本松藩でも藩政改革が求められ、岩井田がその任にあたった。当初は藩主の後ろ盾を得て改革を進めたが、藩内には反対派も多く、戒石銘は批判者に対するメッセージでもあった。しかし、反対派は「下民易虐」の話を曲解して「民を虐げてでも俸祿を得よ」という意味だと吹聴し、さらに農民一揆まで起きたことで、岩井田は失脚する。どのような名言も届かぬ相手には無力ということか。



しかし、その後も戒石銘自体は残り、昭和十年(一九三五)に国史跡に指定され、現在へと受け継がれた。やはり言葉の力を信じた。

(赤井武史・白河市)

短信

☆九月二九日(日曜)に茨城県筑西市内の中央図書館において「加波山事件生起一四〇年記念祭」が開催される。講演会ほか、関連史跡見学も予定されている。結成一〇年の「自由民権加波山事件研究会」(会長桐原光明)主催。小針重雄、河野広躰ら福島県の民権運動家の多くが参加した同事件、ぜひ福島でも注目してほしい。

(飯塚彬・茨城県)

☆檜葉町×東京大学総合研究博物館連携ミュージアム「大地とまちのタイムライン」にて開館一周年記念特別企画展「戦国時代の檜葉」を開催中です。檜葉郡を領知した猪狩家伝来の古文書と檜葉城など町内城跡からの出土遺物を展示しています。11月30日まで檜葉町コミュニティセンターにて。月・祝休、観覧無料。

(白石愛・東京都)

☆郡山市公文書管理委員(任期二年)に就任しました。来年四月開館予定の市歴史情報博物館は、公文書館機能を持つ複合施設です。郡山市は、公文書の移管制度を整備した県内初の自

治体となりますので、適切な公文書管理に向けて少しでもお役に立てればと思っています。

(白石烈・東京都)

☆今年九月に開館三十周年を迎える伊達市梁川美術館。これを記念して、九月七日(土)から企画展「水光るまち 彫刻家・太田良平から現在へ」が開催されます。そして、初日に美術館で、私が太田良平を紹介するトークを行います。柔和で温かな、そして静ひつな作品の魅力を伝えられればと思います。

(高橋翔・福島市)

編集後記

創刊九周年を迎えました。ということとは、次号からは十年目の記念イヤーということになります。いま気が付いたばかりですので、何の準備もしておりませんが、これまでも増して充実した紙面をお届けできるよう励みます。読者の皆様におかれましても、どうぞとご投稿いただき、記念イヤーの盛り上げにご協力ください。よろしくお願ひします。

編集・発行/フークトープ通信社

福島市松木町一三・一六

シユターステイエ二〇二号室

山田英明 方

E-mail: fukutov@yahoo.co.jp